

【ごあいさつ】

2015年アニメーション学会大会は、単独主催としては初めて国立大学で行われることになりました。国立大学の役割が文部科学省から厳しく問われている近年、人文学系への風当たりは年々強くなっています。そんな中、日本アニメーション学会の大会を横浜国立大学で開催させていただくことに、大いなる希望と責任を感じています。

大会のテーマは、「アニメーションとジェンダー」です。アニメーション研究の中で、ジェンダーの問題は重要な論点の一つです。たとえば、商業アニメは、ターゲット視聴者別（男児・女児向け、少年・少女向け、成人男性・女性向けなど）の作品制作がなされてきた一方、昨今は、少子化やジェンダー平等の浸透などにより、そうしたジェンダー区分や意味自体が問われてきています。また、ポストフェミニズム時代の現代において、ジェンダー規範の呪縛から解放され、美＝パワーとして女性のエンパワメントが提唱されましたが、一方で保守的な揺り戻し（バックラッシュ）も深刻化しています。

男性性、女性性に加えて、セクシャルマイノリティの不在化または遍在化など、ステレオタイプ化されたジェンダー表象の再生産や転覆、交渉のなされる場として、アニメーション作品の機能を考察することも可能でしょう。

また、アニメーションの制作者側のジェンダーも問いの一つになるでしょう。制作現場において、男性が多数派を占めてきた管理職や決定権をもつポジションにも女性が多くなってきている昨今、制作におけるジェンダー問題の状況はどうなっているのでしょうか、また、何が問われるべきなのでしょう。

そうした問題意識を共有し、アニメーションとジェンダーにまつわる多様な問題群を、パネル発表によって様々な角度から掘り起こし、可視化し、議論していきたいと思えます。ジェンダーに興味のある方もない方も、今後のアニメーション表現におけるジェンダー問題を意識せざるをえなくなる、有意義な大会を目指します。

第17回大会実行委員長
須川亜紀子(横浜国立大学)

【第17回大会（2015年度）開催概要】

◎2015年6月13日(土)、14日(日)

◎横浜国立大学（教育文化ホール、および教育人間科学部7号館）

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1

<http://www.ynu.ac.jp/access/index.html>

◎大会参加については「第17回大会回答書」をご覧の上、必ず同封のハガキ、または大会出欠確認フォーム(<http://goo.gl/forms/tlX6L27D5m>)にて、6月6日(必着)までにご回答をお願いします。

【プログラム】

■第1日目 6月13日(土)(11:30～受付開始)

12:40～13:00 開会式(教育文化ホール 大ホール)

13:00～15:00 基調シンポジウム「子ども向けアニメにおける少年、少女(仮)」

◎司会:須川亜紀子(横浜国立大学)

◎ディスカッサント:渡部英雄(湘南工科大学)▽木村智哉(日本学術振興会 特別研究員)

◎登壇者:▼秋山勝仁(アニメーション監督「イナズマイレブン」他)▼関弘美(株式会社東映アニメーション「おジャ魔女どれみ」「明日のナージャ」他)▼加藤陽一(脚本家「妖怪ウォッチ」「アイカツ!」他)

15:15～16:35 研究発表 一般パネル(教育文化ホール 中会議室)

▼権藤俊司「妖精が踊らせる—ノーマン・マクラレンとpixillationの成立」▼藤原正仁「アニメーション制作者の就業の現状と課題」▼臼井直也「大藤信郎作品の1950、60年代海外映画祭への出品に関する調査報告—映画祭一次資料及びアニメーション関連書籍の分析から見える映画祭ネットワークの役割を中心に」

16:40～17:00 日本アニメーション学会賞 授賞式

17:00～17:50 第18回総会

18:00～20:00 懇親会(会費制) レストランポルティ(学内)

■第2日目 6月14日(日)教育人間科学部7号館(9:20～受付開始)

9:50～12:35 研究発表 テーマパネル 7号館201教室

▼有吉末充「アニメにおけるリトルマザーとグレートマザー」▼石田美紀「ずれる(声)—女性キャラクター表象を

中心に」▼志田陽子「アニメ女性キャラクターに見る「ジェンダー・トラブル」」▼中垣恒太郎「男の子向けアニメーション作品の日米比較——『ベイマックス』と『大長編ドラえもん』シリーズ」▼平野 泉「カードゲームアニメにおける勝敗基準のジェンダー偏差」▼関口洋美「インターネットによるアニメに関する意識調査—性差を中心に—」

12:35～13:35 休憩（日曜日は売店、カフェテリアはお休みです。構内・近郊にコンビニ（ローソン、サンクス）、岡沢町バス停近くにスーパー（まいばすけっと）がありますが、いずれも会場から遠いので、昼食は各自ご用意されることをおすすめします）

13:40～16:30 研究発表 一般パネル

◎A会場(7号館201教室)

▼中村 浩「アニメーション作成における輪郭の効果に関する一考察」▼吉村浩一「アニメーションや映画はなぜ滑らかに動いて見えるのか—短いレンジの仮現運動説と標本化定理説の共通点と対立点—」▼佐藤壮平「色深度が動きの見え方に及ぼす影響について」▼山中幸生「アニメーション教育に於けるデザイン基礎」▼布山タルト「ワークショップ実践のためのラインテストツールの研究開発」▼鈴木清重「『おべんとう絵本』に関する実験心理学的研究(2)—画像系列の知覚体制化と「うごき」に関する考察—」

◎B会場(7号館202教室)

▼森友令子「『天守物語』にみる妖と『風姿花伝』」▼荻原由加里「漫画映画を教えるということ—政岡憲三の動画講義にみる事例より—」▼渡部英雄「仮面劇としての能とアニメーションに関する一考察——アニメーションの源流について——」▼木村智哉「テレビアニメシリーズ『狼少年ケン』の新作放映終了要因とその影響」▼野口光一「日本市場におけるアニメCGの現状—『樂園追放 Expelled from Paradise』を中心に—」▼泉順太郎「『シングルイ』(2007年、浜崎博嗣,マッドハウス)における、殺傷表現と色彩表現について」

16:40～17:00 閉会式(教育文化ホール 大ホール)

[参加費]

- 大会参加費
- ・正会員：5,000円／非常勤・学生など非正規雇用者 3,000円(自己申告制)
- ・賛助会員：2名まで無料(3名以上からは正会員に準ずる)
- ・一般：1日のみ2,000円、両日とも3,500円
- ・学生：1日のみ300円、両日とも500円
- ・横浜国立大生：1日のみ200円、両日とも300円
- ・高校生以下：無料
- 大会懇親会費 5,500円(予定)

[会場へのアクセス]

(1) 横浜駅よりバスの場合

横浜駅(JR、東急東横線、相鉄線、京浜急行線、横浜市営地下鉄)西口のりばより、相鉄バス(浜10系統)、または横浜市営バス(201系統)にて「岡沢町」下車、徒歩5分。バスの所要時間は概ね20分。(注：土日は学内乗り入れバスはありません。)

(2) 市営地下鉄ブルーライン「三ツ沢上町」駅より徒歩の場合

市営地下鉄ブルーライン「三ツ沢上町」駅出口2から徒歩約30分。国道1号線沿いに横国大方面へ歩き、エッソガソリンスタンド、レストラングランチエガーデンズを通り過ぎると、歩道橋があります。歩道橋を渡り、さらに1号線沿いのホンダのお店を通り過ぎ進み、岡沢町地下道をくぐると広い歩道になります。さらに通り沿いに進むと、前方に岡沢町歩道橋が見えてきます。それを目印に道なりに進むと、正門に向かう階段アーケードが見えます。

(3) 横浜駅西口よりタクシーの場合

横浜国立大学正門(守衛所前)で降車後、階段を登り、会場まで徒歩約1分。(階段を避けたい場合は、一旦ゲートをくぐり構内に入っただき、大会館前(YNUモニュメントの前)の道路で降りると、平坦な道で会場に行けます。

(3) 自家用車の場合

駐車料金、駐車場については、横浜国立大学ウェブサイト内『キャンパス案内>構内交通>車両の出入構について』のページ(<http://www.jmk.ynu.ac.jp/gakugai/shisetsu/2campus/koutsuu/car/car.html>)をご参照ください。

[大会実行委員会]

●実行委員会

委員長 須川 亜紀子(横浜国立大学)

副委員長 渡部 英雄(湘南工科大学)

委員 米村 みゆき(専修大学)

委員 清水 知子(筑波大学)

委員 木村 智哉(日本学術振興会 特別研究員)

顧問委員 小出 正志(東京造形大学)

顧問委員 和田 敏克(東京造形大学)

●実行委員会事務局

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2

横浜国立大学 教育人間科学部第一研究棟518 須川亜紀子研究室気付

日本アニメーション学会第17回大会実行委員会

Tel: 045-339-3387 email: jsas2015@jsas.net